様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２６１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ０２４４３

研究課題名（和文）F・ポルトゥス他による古典翻訳の英国初期近代詩人の神話創造への影響

研究課題名（英文）The Influence of Latin Translations of Classical Greek Literature by F. Portus and Others on Early Modern English Poets and Their Creation of Myths

研究代表者
清水　徹郎（Shimizu, Tetsuro）

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：６０２３５６５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：印刷技術発展に伴い16世紀中葉から急速にヨーロッパ各地で流通・普及した古典ギリシャ詩の学生向け希羅対訳本の同時代英詩への影響という問題について、ポルトゥス訳他の受容状況検証を試みた。併行して同時代美術・演劇での古典ギリシャ文化受容の状況を調べ、広くルネサンス芸術の流れと比較して英詩の位置を考究した。マーロウ、シェイクスピアなど16世紀後半の英国詩人でも、従来論じられた以上にホメロス叙事詩群他ギリシャ詩の影響を思わせる痕跡が観察される。新しい神話では冥界・歌・声などの表象、人間中心の宇宙・起源譚などが特徴的で、言語的イメージをメトニミーからメタファーへ書き換えるなどの形でも再創造がなされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来文学史では、16世紀英国詩人においては古典ギリシャ文学からの直接的影響がほとんどなかったとする見方が主流だったが、近年では１６世紀に印刷本として多く流通するようになったラテン語訳による受容の可能性が重視され始めている。本研究はそのような研究動向を踏まえ、シェイクスピアとその同時代詩人のテクストにおいて具体的な受容の容態を考察したものである。結論として言えるのは、古典が必ずしも常に伝統的権威として特権的知識階級の独占物だった訳ではないということ。少なくとも大学初年レベルの教養を持つ詩人たちが、翻訳テクストを媒介に古代詩人たちと想像力による対話を行う状況が整っていたことが明らかになっている。

研究成果の概要（英文）：Along with the development of printing in the mid-16th century, Greek-and-Latin bilingual, student editions of Classical Greek poems came to widely circulate throughout Europe, influencing not a few English poets of the time. This is a research on the latter's reception of Classical Greek poetry through the 16th-century printed texts, among which the Genevan editions with Portus' translation seemed most prominent. The project also referred to some examples of reception of Classical Greek poems in the contemporary fine arts and drama. The results contain the finding that certain texts of some late-16th-century English poets, among whom Marlowe and Shakespeare were noteworthy, were a lot more influenced by translated Classical Greek poems than used to be believed. The characteristics of newly created Renaissance myths can be seen especially in human-centered etiology of the world, and in metaphoric rewriting of many traditional metonyms, e.g. of the underworld, singing and voice.

研究分野：英語英文学

キーワード：Franciscus Portus　Greek　Homerus　Shakespeare　Marlowe　Latin translation　myth　printing

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

この研究は本研究代表者が先に同じく研究代表者として実施した基盤研究 C「小型版古典テキストの普及と 1580 年代の英詩・英国演劇」（2010 年度–2014 年度 課題番号 22520232）の成果を踏まえ、それを発展させる計画で開始したものである。先の研究では 1560 年代にジュネーヴの印刷業者 ジャン・クレスパン(Jean Crespin)が主に大学生向けテクストとして刊行した 16 折版ギリシャ語・ラテン語対訳ギリシャ詩歌集他が、当時のヨーロッパで広く読まれた形跡があることを確認した。その際、マーロウの小唄「僕と一緒に暮らそうよ（“Come live with me...”）」と小叙事詩『ヒアロウとリアンダー(*Hero and Leander*)』の種本がクレスパンとその後継者ユスタース・ヴィニョンの印刷工房から刊行された同じ体裁のギリシャ詩歌集であった可能性が高いという結論に至った。また対訳テクストの編纂とラテン語訳としては、ジュネーヴ・アカデミーの教授フランキスクス・ポルトゥスの仕事が重要で同時代および後世への影響が大きかったことがわかってきた。本研究はそのような状況のもとで、16 世紀後半の英国詩人における古典ギリシャ詩の受容の問題をより対象を広げて調査すべく開始された。

２．研究の目的

この研究の目的は、学生向け対訳本の普及という状況下で初期近代の英国詩人たちがどのように古典ギリシャ詩の受容を行なったかを具体的に記述し、さらには詩人にとって古典とはどのようなものであったのかという問題を考察することである。

３．研究の方法

本研究は主として関連資料・文献の調査とテクスト分析に基づく論考として実施された。調査対象とした関連資料・文献は、15・16 世紀の印刷史に関するもの、古典ギリシャ文学の翻訳・出版・流通等に関するもの、古代から初期近代に至る詩のテクストであり、併行して造形芸術のテーマとしてのギリシャ叙事詩・神話についても可能な範囲で調査を行なった。一例としてはホメーロス叙事詩をテーマとする 15～17 世紀の絵画等である。初期近代の英詩としてはシェイクスピアとマーロウの詩・戯曲が分析の中心となった。

４．研究成果

本研究の成果として確認した事柄は 1)地獄/冥界の表象、2)詩人の仕事としての歌と語り、3)声の神話、4)愛の神話などに関するものである。

1)　「地獄/冥界の表象」については、
研究紀要『人文科学研究』第 15 巻(2019)に論文‘ “Why, this is hell”: Metonymy of Hell, or the Underworld, in Epic, Drama and Shakespeare’s *Sonnets*’ として公表した。マーロウとシェイクスピアが新しくメタファーとして書き換えた地獄の表象は、ダンテ『神曲(*Divina Comedia*)』の地獄表象やウェルギリウス『アエーネーイス(*Aeneis*)』の冥界表象ばかりでなく、ホメーロス叙事詩『オデュッセイア(*Odysseia*)』からも影響を受けていたものと推測される。16 世紀の段階ではホメーロスの十分な英語訳がまだ出回っていなかったので、ラテン語訳またはギリシャ語・ラテン語対訳テクストで読まれた可能性が高い。

2)　「詩人の仕事としての歌と語り」については、
研究紀要『人文科学研究』第 16 巻(2020)に論文 ‘ The Great Teller of Tales, or πολύμητις : Problematizing the Metonymy of Singing in the Epic Tradition and Shakespeare’s *Sonnets*’ として公表した。シェイクスピア『ソネット集(*The Sonnets*)』では歌うことよりも語ることを重視する思想が見られるが、これはすでにホメーロス叙事詩『オデュッセイア(*Odysseia*)』においても見られる思想である。ホメーロスが口承詩人の末裔であったとするのが有力な推測であることを考慮すると興味深い点だが、シェイクスピアも詩人の伝統的な仕事として語りと歌の関係について思索したものと解釈できる。その際に『オデュッセイア』の詩人も念頭にあったと考えられる。前項と同様の理由で、『オデュッセイア』が 16 世紀に読まれたとすれば、ラテン語訳またはギリシャ語・ラテン語対訳テクストが使用された可能性が高い。

3)　「声の神話」については、
研究紀要『人文科学研究』第 17 巻(2021)に論文‘ “She throws forth Tarquin’s name”: Some Sixteenth-Century Traditions of ἄπτερος and the Idea of Voice in Shakespeare’s Poetics’として公表した。シェイクスピアのいくつかの戯曲、物語詩『ルークリースの凌辱(*The Rape of Lucrece*)』、『ソネット集(*The Sonnets*)』で、口から発せられ聴き手に届くべき声の問題への強い関心が見受けられる。これもホメーロスで、特に『オデュッセイア』において、典型的に見られる問題である。ホメーロスでは「翼を持つ言葉」という定型句で現れる。シェイクスピアは古代ローマ詩人オウィディウスの詩と並んでホメーロス叙事詩においても、この問題に馴染んでいたものと推測できる。前項・前々項と同様の理由で、ホメーロスが 16 世紀に読まれたとすれば、ラテン語訳またはギリシャ語・ラテン語対訳テクストが使用された可能性が高い。

4)　「愛の神話」については、

論文としては未発表であるが、いずれ何らかの形で成果を公表したい。マーロウの小叙事詩『ヒアロウとリアンダー』とシェイクスピアのいくつかの詩・戯曲において顕著であるが、「愛の神話」を初期近代の新しい神話として再創造する場合、古代ローマおよび中西以来の「愛の神」を原因とする神話から人間の感情そのものを原因とする近代的神話への書き換えが特徴的である。これは古代ローマ文学に現れる愛の神話よりも、古代ギリシャ文学で語られる愛の神話にむしろ近い。この問題については、ホメーロスに加えてギリシャ悲劇詩人ソポクレース、エウリーピデースのラテン語訳などとも比較して、さらに検証と論考を継続したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 Tetsuro Shimizu	４．巻 16
２．論文標題 The Great Teller of Tales, or polymetis [in Greek] : Problematizing the Metonymy of Singing in the Epic Tradition and Shakespeare ’ s Sonnets	５．発行年 2020年
３．雑誌名 人文科学研究	６．最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Tetsuro Shimizu	４．巻 15
２．論文標題 "Why, this is hell": Metonymy of Hell, or the Underworld, in Epic, Drama and Shakespeare's Sonnets	５．発行年 2019年
３．雑誌名 人文科学研究	６．最初と最後の頁 149-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 清水徹郎	４．巻 11号
２．論文標題 恋は一目惚れ？-- 亡き羊飼いと愛の理屈	５．発行年 2017年
３．雑誌名 メタポゾン	６．最初と最後の頁 234-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tetsuro Shimizu	４．巻 17
２．論文標題 'She throws forth Tarquin ’ s name':Some Sixteenth-Century Traditions of apteros [in Greek] and the Idea of Voice in Shakespeare ’ s Poetics	５．発行年 2021年
３．雑誌名 人文科学研究	６．最初と最後の頁 125-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 清水徹郎
２．発表標題 再会と認知のナラティブ ー 『オデュッセイア』の受容とシェイクスピア
３．学会等名 宗教とテューダー朝演劇の成立研究会
４．発表年 2016年

〔図書〕　計1件

１．著者名 松岡和子訳、清水徹郎解説	４．発行年 2017年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 208(198-203)
３．書名 シェイクスピア全集29アテネのタイモン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Tea Pot お茶の水女子大学人文科学研究
http://hdl.handle.net/10083/00063611
お茶の水女子大学Tea Pot ＞　紀要　＞　『人文科学研究』
https://teapot.lib.ocha.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=2&q=347&timestamp=1624263296.3126426

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関